

3月5日は二十四節季の「啓蟄」。暖くなり土の中の虫たちが地上に出てくる時期といわれています。三寒四温の日が続きますが、春はもう直ぐそこまで来ています。春商戦の取り組みも今が本番です。



株式会社 K B S 創研 代表取締役 小泉 寿宏

特定非営利活動法人ふるさと応援隊の人材育成事業「ふるさと応援塾」

着地型観光の支援を行うKBSグループのNPO法人ふるさと応援隊では、昨秋より地域活性化に興味を持つ京阪神の学生を対象に観光による地域振興を担う人材を育成する「ふるさと応援塾」を開講しています。KBSのコンサルタントが講師となり、2ヶ月に一度の頻度で勉強会を実施。第1期生30数名の学生がエントリーし常時十数名が参加し活発な活動を行っております。

私たちがまちにお伺いしよく耳にすることは「人材がいらない」ということです。特にマーケットの動向に敏感でITを活用した情報発信ができる若い人材が不足しています。地域で動き回る人材がいないと、私たちコンサルタントの支援も中々地元に根付かせることはできません。「ふるさと応援塾」の卒業生が故郷に帰り、様々な仕事や立場でまちの活性化を考え取り組む一助になればとの思いで、塾の運営を行っています。

既に3回の勉強会を開催しました。コンサルタントからの一方的な話にならないよう、毎回セミナーのテーマに沿ったディスカッションを行い、理解を高めるとともに学生間の相互交流を図る工夫をしております。3月には地域活性化の現場を視察する合宿を実施、最終的には9月に香川県で地元学生と協働で観光プランを作るコンテストを行う計画です。一人でも多くの学生が、観光における地域活性化の担い手となっていただけよう、頑張っています。

既に3回の勉強会が終了しました。

**観光による地域活性化の意義や効果、観光資源の発掘の方法からその事例まで紹介。
いよいよ、3月には地域活性化の現場へ！**

■第1回 2011年11月12日(土) 18:30～21:00

テーマ：地域活性化概論

場所：キャンパスプラザ京都

講師：株式会社KBS創研 代表取締役 小泉寿宏

学生：立命館、同志社、京都女子、京都嵯峨芸術、
神戸、近畿

(講義の概要)

人口減少、製造業の海外移転等、地方経済は大変厳しい局面を迎えようとしています。

そんな中で注目されているのが、観光による地域経済の活性化。観光業界は、旅行、宿泊、交通、レジャー、飲食、情報・出版、地域物産等、非常に裾野の広い産業から成り立ち、その規模は国内観光市場だけみても約22兆円。経



済波及効果が大きく、地域経済の活性化と雇用促進に大変大きな期待が寄せられています。

そんな中、これまで観光地としてそれ程有名ではなかった地域でも、官民一体となり、観光商品の開発や、観光街づくりに取り組むケースが増えています。このように観光を地域活性化に活かす意義と効果について学んでいただきました。

■第2回 2011年12月17日(土) 18:30～21:00

テーマ：観光ニーズの調査手法と着地型観光の導入事例

場 所：ウイングス京都2F 第1会議室

講 師：株式会社KBS創研西日本営業部長 谷口純平

学 生：立命館、同志社、京都女子、神戸、近畿、関西



(講義の概要)

観光による地域活性化を目指すには、来街者のニーズの把握や観光コンテンツの評価を行い、どのような資源が評価されるか、どの資源を組み合わせるかを観光プログラムを策定

するのかを検討する必要があります。今回の講義では兵庫県地方都市で実施した調査内容を披露し、調査設計から分析結果の活用までのプロセスを学んでいただくとともに、課題を浮き彫りにするための調査技法を考える場としました。

■第3回 2012年2月6日(月) 18:30～21:00

テーマ：着地型観光の事例研究

～兵庫県香美町で行われた漁師料理の観光化～

場 所：京都府庁NPOパートナーセンター

講 師：株式会社KBS創研 代表取締役 小泉寿宏

学 生：立命館、同志社、京都女子、京都嵯峨芸術、神戸、近畿、関西学院



(講義の概要)

地域資源をどのように観光コンテンツに仕上げるか、またそれによりどのような地域の問題が解決できるかを具体例で考察しました。題材は兵庫県香美町の町営国民宿舎「ファミリーイン今子浦」様とKBSで取り組んでいる漁師料理の観光化。

わが国の漁業が抱える問題点を知るとともに、着地型商品開発の舞台裏から成功例、失敗例を披露し、着地型観光の実現の魅力とその難しさを考えていただきました。

※3月には、合宿として香美町へ訪れる予定です。

ふるさと応援塾は、観光による地域活性化に興味を持つ意欲ある学生の参画によって成り立っています！

私の故郷は兵庫県北部の和田山町という田舎で、少子高齢化が進み、若者はどんどん地元を離れ、活気がなくなっています。この状況をなんとかしたいと思い地域活性化に興味を持っていたところ、ふるさと応援塾を知り参加しました。ビジネスの現場で活躍されている方を通して学べるのは非常に貴重な経験だと感じています。今後は9月の観光プランコンテストに向けて知識をインプット・アウトプットしていきたいです。そして、ふるさと応援塾で学んだことをしっかり自分のものにし、将来何らかの形で地域活性化に取り組みたいと考えています。

(立命館大学 経営学部3回生 衣川 佳延)

私は山梨県の田舎から、関西の大学にやってきました。そこで、山梨という地元が自分のアイデンティティとなり、地元を好きになりました。そのような経験から地域というものには絶えず関わっていたい。

さらに、ビジネスという視点で「観光」というものに興味を持ちました。ふるさと応援塾では、それらを実践的に学ぶことができます。私はここで地域貢献という視点を意識せずとも考えられるようにし、そこから派生する様々なスキルや知識を身につけたいです。

(立命館大学 経営学部3回生 浅川 達郎)

震災、原発事故、長引く不況。暗いニュースが多かった昨年末、ふるさと応援塾はひとつの希望をもってスタート。失われた20年に生まれ育った平成生まれの若者達。私達が彼ら、彼女らに感じるのは、ゆとりや甘えではなく、地域を、日本を良くしたいというエネルギー！彼ら、彼女らのエネルギーを正しい方向に導くことこそ、ふるさと応援塾の使命です。参加する学生は、公務員志望、マスコミ志望、起業家志望など多種多様。ふるさと応援塾は、未来の地域活性化を担う様々な人材を送り出していきます。頑張れ若者！頑張れ日本！

(ふるさと応援隊 事務局長 竹腰 幸司)



編集 後記

NPO やコミュニティビジネス、農工商業青年部活動などを通じ、「わがまち」と共に働こうと考える若者世代が増えてきたように感じます。先輩世代がまちづくり活動を通じ、活気と魅力に満ちた地域作りを実践してきた成果でしょう。活動の中に若者がいると活気が出ます。未来が見えます。ふるさと応援塾の勉強会でこれほど多くの学生が積極的に学んでいることは素晴らしいこと。卒業生が核となってまちを活性化していく日もそれほど遠くないことでしょう。楽しみです。(増田)

株式会社 KBS 創研

本社・西日本営業部：〒661-0003 兵庫県尼崎市富松町1-9-15-103 TEL: 06-6423-5561/ FAX: 06-6423-5571

東日本営業部：〒103-8246 東京都中央区日本橋2-6-5 日本橋2丁目ビル6階 TEL: 03-3246-1314/ FAX: 047-426-0913

<関連会社>ネクストサポート株式会社(事業再生コンサルティング)

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-6-20 マスイビル6階 TEL: 06-6282-7226/ FAX: 06-4707-3855

特定非営利活動法人 ふるさと応援隊(着地型観光支援事業)

〒604-0044 京都市中京区小川通押小路下下古城町376-205 TEL: 075-708-5741/FAX: 075-708-5741

●代表取締役：小泉寿宏

●事業内容：観光・サービス業の経営支援

●設 立：2004年4月

●地域オフィス：関西・東京